

## 平成 24 年度 第 2 回 備前市公共交通会議 議事概要

1. 日 時：平成 24 年 8 月 29 日（水）10 時 00 分～11 時 32 分

2. 場 所：備前市保健センター 3 階 研修室

3. 出席者（敬称略）

（委員）

|     |         |                          |
|-----|---------|--------------------------|
| 会 長 | 西 岡 憲 康 | （市 長）                    |
| 副会長 | 宇治橋 昭 彦 | （市自治会連絡協議会）              |
|     | 橋 本 成 仁 | （岡山大学大学院環境生命科学研究科 学識経験者） |
|     | 三 村 功   | （総務部長）                   |
|     | 岩 崎 透   | （市教育委員会）                 |
|     | 大 本 一 栄 | （日生運輸株式会社）               |
|     | 香 西 正 巳 | （県タクシー協会和気支部）            |
|     | 藤 原 真   | （日生運輸株式会社）               |
|     | 溝 邊 榮   | （市自治会連絡協議会）              |
|     | 三 宅 陽   | （市老人クラブ連合会）              |
|     | 井 上 邦 允 | （市老人クラブ連合会）              |
|     | 山 本 啓 之 | （伊里小学校 P T A）            |
|     | 井 口 恭 子 | （吉永小学校 P T A）            |
|     | 渡 辺 孝   | （JR 西日本岡山支社） 石原委員代理      |
|     | 西 滝 道 雄 | （瀬戸内観光汽船株式会社）            |

（専門員）

|         |                        |
|---------|------------------------|
| 岡 田 和 史 | （中国運輸局岡山運輸支局首席運輸企画専門官） |
| 秋 本 理 恵 | （中国運輸局岡山運輸支局運輸企画専門官）   |
| 保 田 邦 昭 | （備前警察署交通課企画係長）         |
| 田 中 信 彦 | （岡山県備前県民局東備地域建設課主任）    |

（事務局）

|         |                  |
|---------|------------------|
| 森 脇 博   | （備前市企画課課長）       |
| 田 原 義 大 | （備前市企画課参事）       |
| 出 射 詩 都 | （備前市企画課主査）       |
| 今 脇 誠 司 | （備前市教育委員教育総務課参事） |
| 入 江 章 行 | （備前市教育委員教育総務課参事） |

欠席委員・専門員（敬称略）

|         |                 |
|---------|-----------------|
| 宇 野 泰 正 | （宇野自動車株式会社）     |
| 藤 澤 健太郎 | （市自治会連絡協議会）     |
| 更 谷 暢 久 | （市自治会連絡協議会）     |
| 寺 見 史 朗 | （市老人クラブ連合会）     |
| 雄 島 仁   | （大生汽船株式会社）      |
| 稲 家 誠   | （岡山県県民生活交通課副参事） |

傍聴人：4 名（うち報道 2 名）

4. 議 事

- ・開会
- ・あいさつ（市長）

- ・出席者の紹介

- ・協議事項

- 【案件１】備前市地域公共交通計画策定調査事業の実施について

- ・備前市の公共交通の現況（平成 23 年度調査結果報告）

- ・備前市地域公共交通計画策定調査事業の計画

- 【案件２】各種アンケート調査についての説明

- ・住民アンケート

- ・高校生アンケート

- ・民生委員アンケート

- ・日生諸島住民アンケート

- ・その他

## 5．合意事項

上記協議事項について承認

## 6．【会議要旨】

### (1)開会（事務局）

### (2)あいさつ（西岡市長）

委員のみなさま、ご出席いただきありがとうございます。日頃より市政並びに各分野にご協力いただきましてありがとうございます。また、忙しい中、専門員として出席いただいております岡山運輸支局、備前警察署、県関係の皆様、ありがとうございます。また、今回新たに委員としてお願いする、JR、船舶事業者、学識経験者である岡山大学大学院橋本先生におかれましてもご出席いただきありがとうございます。

公共交通会議の目的ですが、平成 18 年より道路運送法の規定により公共交通会議が設置されています。地域の公共交通は、地域で考え、作り、守り、育てる。地域内で新たに路線を増やすとか、運賃を変えるとか、その態様を変えるとか、大幅にダイヤを変えるとかといった場合には、この会議で協議する必要がります。また今回より、従来の公共交通会議の役割に加え、市の交通政策を総合的に推進するための地域公共交通計画作成に関する協議及び交通計画の実施に係る連絡調整など、この会議において行っていくこととしており、本日は公共交通計画策定調査事業の実施に関し皆様方より忌憚のないご意見をうかがえればと思っております。

現在、公共交通機関の維持・確保は、人口減少、少子高齢化、モータリゼーションの進展に伴う利用者の減少等により非常に厳しくなっており、本市でも路線バス等の運行維持のため、多額の費用を負担していますが、年々利用者が減少しており、その運行維持の厳しさが増しております。今後は、現行の運行形態の検証をし、地域の特性や実情に応じた最適な移動手段を、他の交通モードとの連携も深めながらどのように考えていくかということが課題であります。また本市の独自の課題として、架橋事業完成後の公共交通を海上交通、陸上交通を含めてどう考えていくかということもごございます。限られた経営資源の中で効率的かつ利便性の高い公共交通システムの構築ができるよう皆様のお知恵をお借りしたいと考えております。よろしくお願いいたします。

### (3)出席者の紹介

事務局による紹介

#### (4)協議事項

会 長：【案件１】の備前市地域公共交通計画策定調査事業の実施について、事務局より説明願います。

事務局からの説明

（既存路線の概要及び公共交通計画策定調査事業の業務計画についての説明）

会 長：ありがとうございます。皆さん方より、まずは既存路線の概要について質問に限定して、何かありませんか。

岡山県では定住自立圏構想がありまして、国の総務省の構想です。ここに赤穂市と備前市と上郡町が県境を越えて指定を受けて、近畿州と中国州を越えた路線バスが認められ、吉永と赤穂を結ぶめずらしい路線です。なんとかやっているとところです。そのほか、この地域は拠点が多いです。山陽本線が通っている、赤穂線が通っている、宇野バスが通っている。バスや電車がたくさん通っています。結節点の問題など多くあります。一見便利なようですが、ある意味便利すぎですが、県北ではあまり通っていないところがあります。既存路線の公共交通について意見、質問がありましたらどうぞ。

無いようでしたら、後半の説明について。基本的に難しい用語や方式が示されたので理解しにくかったかもしれませんが、何か説明について質問はありませんか。

橋本先生：私から少し意見を述べます。前半の説明と関わってきますが、市内のバス利用者で小学生と中学生が多く関わっている路線があります。他の地域の生活交通を考えると、あまり出てこない状況だと思われますが、おそらく通学の時に使うので、時間及び路線が変更不能だと思います。それを踏まえたうえで、昼間、もう少し遅い時間など高齢者が病院に行く、あるいは買い物に行くなどで時間の制約、通るべき経路の変更の可能性などが計画では考えられないのでしょうか。朝と昼とでは路線の性格が変わると思います。それについてどう対応しようとしていますか。

事務局：説明でも触れましたが、朝と晩とで違います。ここは協議が必要だと思います。例えば、山地部で人口が少ないところは、朝・夕だけスクールバスを走らせて、昼間は週３日だけデマンド型にするところがあります。備前市でそこまでのかは、今からの調査によって変わってくる。義務教育の生徒が乗る便は必ず確保しますが、昼間の方はもう少しフレキシブルに柔軟に考えて、利用しやすいようなものを検討したいと考えています。

橋本先生：人口の関係で、便を間引くなどすると同時に、今行けていないところが行けるようにする、などが考えられます。

事務局：例えば昼間の系統を変えるとか、昼間を面的な運行にすることなどが考えられ

ます。

会 長：専門委員の方、何かご意見等はございませんか？

岡田専門員：先ほど、橋本委員が小中学生について述べられました。小中学生の利用は、やっぱり少子化に伴って減っていると思いますが、そういったところからはデータは取りやすいと思います。取ったデータはどのように生かしていくお考えでしょうか。スクールバス、福祉バスとの関連はどのようにお考えでしょうか。

事 務 局：小中学生の、５年後、１０年後について、公共交通計画は比較的近くを見据えた計画です。状況に応じて毎年でも見直しになると考えています。計画では、今後の見直しの考え方を整理できればと考えています。スクール専用バスや福祉バスは、統合できるサービスなら統合することにして、既存のバスに乗せる、運動能力上福祉のサービスでないといけない、などあり、行政の福祉部門等とヒアリングしながら、できること、できないことを整理して調査を進めていきたいと考えています。

会 長：他には無いでしょうか。無いようでしたら、業務計画につきましては、このような形で進めるということによろしいでしょうか。（よろしいとの声あり）

次に、【案件２】の各種調査についての説明を事務局よりお願いいたします。

#### 事務局より説明

会 長：ありがとうございました。ただ今の説明に対して、何か質問がありましたらお願いします。

委 員：調査の方法ですが、15,800世帯の中から3,000世帯を抽出するわけですね。各世帯に郵送するということで、交通不便地域からも抽出すると思います。それは3,000世帯にプラスで実施するのですか？それとも3,000世帯の中で実施するのですか？

事 務 局：3,000世帯の中に交通不便地域も含めて実施したいと考えております。

会 長：項目が多すぎると思います。ぎっしり書いてあると最初から読む気が起きません。理解しにくいです。例えば２ページを見てこれだけ多く書いてあると、これは回答しにくい、と思います。用紙はA４サイズで調査されるのですね。

事 務 局：A３両面で実施します。通常ですと住民全体から無作為に抽出して実施しますが、そうしますと中心部とか人口の多い所からたくさんサンプルができます。

そうではなく、今回具体的な方法としては、今把握できる最小の行政単位で、均等になるように割り振ります。各地区約 20 世帯、150 分割で配布していきます。20 世帯に満たない地区は全世帯配布します。

委員：他のまちは分からないが、高齢者でも車の免許を持つ比率が高いので公共交通を使わない人がかなりいると思われます。そのところを踏まえてどう抽出して実施するのかが気になります。経験があるから大丈夫と思うが、実態からみて意識して配るのは難しいと思いますが、意識しないと良いデータがでないと思います。

事務局：アンケートの依頼文書のなかにも、なるべくバスを必要とする人を、と呼びかけています。今までもこういった方法で実施しているところがあり、該当者に回答してもらっています。だから、年齢構成についても備前市の平均ではなくて、高齢者の方が多く答えるアンケートになります。平均値にはならないですが、バスが必要になる方からのデータがたくさんとれます。あと、調査票が難しいという意見がありましたが、若干高齢者が答えるには難しい部分もあろうかと思います。3,000 部配って、交通に不安がある人、要望がある地区に関しては、びっしり書いて回答します。調査票の内容が難しくなると回答率が低くなりますが、これまで同じアンケートをすると、例えば自治会配布、回収なら 9 割超えた地区もある。郵送でも 4 割返信されることがあります。今回は少なく見込んでいます。全体で最低 500 部は回収できれば大丈夫とみています。統計的には 400 程あれば意味のあるアンケートと言えます。なお、高齢者からの意見が取れない部分に関しては、民生委員のアンケートからの意見を参考にさせていただきたいと考えています

委員：会長が心配されているように回収率が気になり、色々な方法をとらないといけないと思います。回答に際して判断できない人は企画課へ連絡すれば良いと思うが、そこまで熱心な人がいないかもしれません。経験が豊富なのでデータは取れると思いますが、少し心配です。

会長：専門性があるのだから、大体配布数の 10% が返ってきたら有効であるという理論があるのでしょうか。

事務局：全体で 420 から 430 返ってくれば統計的に調査は成り立ちます。

会長：回収率 10% や 20% などの考えが有ると思います。ただ、印象として内容が難しいと感じました。字がびっしり書いてあると最初から読む気がしません。もう少し行間を空けて表示してもらえると良いです。

事務局：分かりました。フォントや見た目などもう少し考えて、簡単にできる部分は修

正していきたいと考えております。

会 長：大きめの字にするのが良いです。虫眼鏡を使わないと見えづらいと、理解がしにくくなります。どなたか他に意見はありませんか。

委 員：高校生のアンケートはここまで大規模に実施する必要があるでしょうか。諸島や山間部の意見をよく取り入れた方がいいのではないかと思います。

会 長：困っている人へアンケートを実施するのが良いと思います。

委 員：公共交通を使う時刻は高校生ならばすぐわかるし、改正されても新しい時刻をすぐに覚えます。日生の島、吉永の山間部、香登の西など、困っているところへのアンケートをしっかりとると良いと思います。

会 長：いまおっしゃったところは、実際に公共交通に関して困っている地区です。事務局でよく相談して下さい。地図で見た地理と、交通で見た地理とは違います。交通上困ったところがある地理があるのです。日生諸島などはそうですね。

委 員：そうです。

委 員：そういうところへアンケートをすると、きちんとした整理ができると思います。3,000 通を吉永の山間部、諸島、西鶴へ重点的に配布するなどすれば良いと思います。

会 長：橋本委員からは何かないですか。

橋本先生：他の地域からすると、アンケートの内容はこれが最低限で、これくらい聞かないと、まともな計画ができないと思います。アンケートには工夫の余地がありますが、情報を少なくすると、肝心なところが分からなくなって、使い勝手が悪くなる可能性があります。経験的に、これくらい設問が必要ではないかなと思っています。大学で各自治体を実施していますが、回収率では郵送配布、郵送回収で 40% はとれます。地域ですが、今回 150 分割で実施しますので、先ほどから心配されています不便地区もたくさん抽出できると思います。逆に心配しているのは、不便地区からの意見がたくさん取れ過ぎて、それで何が起こるかと言うと、みんなが「乗る」と回答します。ならばバスを 10 台投入しよう、とやってみても誰も乗っていない、ということになります。割合で言うと、確かに北部の山間部とか、先ほどから出ている地域に配るのはいいのですが、あまり厚めに意見を取り過ぎて、そのまま鵜呑みにすると過剰なバスサービスを提供することになり、結果として空気を運ぶバスになります。実際には、まち

なかで乗ってくれる人がたくさんいるのです。便利だけでも人がたくさんいるから、まちなかにいる人のうち1%しか乗らなくても満車になってしまいますし、北部だとそこに人口の10%が乗っても、実はそれほどたくさん人は乗らないので、その辺りのバランスを考えないといけません。サービス提供のやり方が本当にこれでいいのかと思います。使い方としては、地域の人はどこに行きたいのかを把握する調査として実施すると良いと思います。

高校生アンケートの実施に当たって、良く分からないことがあります。先ほど述べたように小学生や中学生が利用している実態が有ります。小学生や中学生でなくて高校生か、と思いました。そもそも高校生が乗っているかどうかは今日のデータを見た限りでは分からないのです。井原市でも、調査やシンポジウムを行いました。そのなかで出てきたのは、ちょっとした使い勝手の悪さでバスが使えなくなっている、ということです。例えば、クラブ活動を18時30分までしているところがあります。ところが学校の前のバス停では、ちょうどその時間にバスが発車します。バス会社からの論理ならば、ちょうど良く高校の前に着くから一番いいのだ、ということですが、高校生にとっては、バス停を18時30分に発車することは、部活が終わった時間にバスが発車している、ということになります。あと20分発車を遅らせることができれば、着替えをしてバスに乗ることができ、バスで帰ることができます。ちょっとしたボタンの掛け違いで誰も使わないバスになります。成人された方はほとんど車で移動しているかと思いますので、ターゲットは、高校生以下の子どもと、高齢者でも、免許を持っていない、もしくは、まちに出たいが、ちょっと出るには不安を感じている高齢者になると思います。高校生以下と高齢者をアンケート調査の対象にするのは妥当だと思います。ただ、高校生だけでいいのか。中学生も部活をしていることを考えると、中学校に聞けばわかるかと思うので、今回の形で良いと思って見ていました。

会 長：ありがとうございました。専門員から何かございませんか。

岡田専門員：先程の橋本委員からの話に関連しますが、小中学生が乗る、というのは、スクールバスの代替で、補助が出て乗っていると思います。その地区限定で実施していると思います。それ以外の地区ではスクールバスなり、その他の交通手段の利用だと思います。利用のメインは高校生だと思います。これはバスだけではなくて、JRを含めて交通機関の利用は、高校生が一番多いと思います。その中で家族の送迎など高校生の移動がどういう実態なのかを知る必要があると思います。その上で公共交通の利用促進などが求められていると思います。

会 長：ありがとうございます。どなたでも何か意見等ありましたらおっしゃって下さい。無いようでしたら、アンケート調査については先程来質問が出ていました要点を参考にしながら、おおむねこの方向でやっていこうということで、よろしいでしょうか。(よろしい、との声あり)

#### (5)その他

会 長：それでは、最後「５．その他」について事務局から何かありましたらお願いします。

事 務 局：１点お知らせがございます。御存じと思いますが、昨年新しく建替えを行った備前病院の駐車場がこの度完成し、引き続き備前バスさんが新病院内の駐車場内へ乗り入れを本日より開始されております。なお、現時点でのダイヤの改正はございません。新しい駐車場では、バスの駐停車のスペースを設けております。行った折にはどうぞご確認ください。建物の裏にバスの停留所がございます。この場をお借りしてお知らせさせていただきました。

会 長：バスは病院の裏へ回るのですか。駐車してＵターンではなくて。

委 員：裏にとめて乗降できるようにします。渡り廊下の横に駐車スペースを設けています。駐車場の方へ回ってバスに乗ることとしています。

会 長：どの路線が病院の裏の停留所に停車するのですか。

事 務 局：現在の備前病院着は５便ございます。日生線、東鶴山線、三石線です。備前病院発も５便ございます。三石行きや伊里中行き、青石行き、福浦行きなどがございます。

会 長：運賃は２００円ですか。

事 務 局：２００円です。

委 員：宇野バスは入らないのですね。

事 務 局：今のところ、入っていません。

委 員：停留所に屋根が無く、待つのが大変かなと思います。交通弱者が大変な目に遭っているかと思います。

会 長：宇野バスは、病院の構内へ入っていきたくてこないですか。香登からでも入ってくれば便利だと思いますが。

委 員：宇野バスが病院の構内に入ろうとしたならば、バスが大きすぎて入りにくいのではないのでしょうか。それと、岡山から備前病院までの時刻は変わらないでも、備前病院から片上へのダイヤが変わることになります。反対方面では、備前病

院までの時刻が変わらなくても岡山までのダイヤが変わることになります。

会 長：今後の課題としておきたいと思います。他に委員の皆さまからご質問やご意見を何でも良いので出して下さい。

委 員：利用者側から2点ほどあります。バスについては、鳴り物入りで議論した時期がありました。CO2削減などを考えて、市民が車を使わず公共交通機関を利用しよう、と議論しました。また、福祉バス等にありますように、交通弱者をどうするか、について思いついたことをお話しします。福祉バスにボランティアなどが乗って、教養、栄養、リハビリテーションなど、にすることがバスのなかで出来るのではないかと、思います。図書館などと同じような役割でゆっくりと、福祉バスに乗りながら読書したり、会話したり、リハビリテーションとして足を動かしたりするなど、サロンのように利用できないかと思っています。そういう提案です。図書館の役割を持たせて、福祉ですから、暗いイメージから脱して、教養、リハビリテーションなどにより、身体機能が改善できるような乗り物として、CO2削減にもつながればと思います。公共交通の利用促進を考えないといけないと思います。マイカーを置いて、CO2削減や事故を減らすことなどにつなげると良いと思います。

会 長：最後に橋本先生から何かありますでしょうか。

橋本先生：今のご意見は結構面白いな、と思いました。そもそも民間で経営していたバスであり、今は行政でお金をかけていろんなことをやっていこうとしています。単に人が移動するだけではなくて、これがあることによって、生活がどう良くなっていくのか。備前市が住みやすくなっていくのか。最終の目的はそこだと思っています。バスの中で先ほどの提案内容を行っていくのか、バスが福祉施設、図書館等へ連れていくか、それはどちらでも構わないが、いずれにしてもここに住み続ける、そのための一つの方策として公共交通がある、という考え方でやっていただきたいと思います。バスを走らせるのが会議の目的でなく、その先が目的だと思う。それを委員の皆様で共有していけば、良い計画ができると、思います。

会 長：ありがとうございました。なければ終了したいと思います。お忙しい中お集まりいただきありがとうございました。以上で会議を終了します。

了